

「三多摩壮士」はなぜ生まれたか？ ～自由民権運動にみる多摩のDNA～

2013年度 インターゼミ多摩学班

4年 根東 佑磨 3年 古西 政樹
2年 小山 明信 角野 匡子
1年 伊藤 捺夢 宮崎 大地

目次

1. 研究目的・結論
2. 比較表(3人の豪農)
3. 基礎知識
4. それぞれの豪農について
5. 自由民権運動の広がり
6. 参考文献

研究目的・結論

- 多摩地域は自由民権運動が活発な地域であった。
- その活動家の多くは豪農層であった。
- 天領であった多摩地域は下級武士と豪農層の距離が近かった

	富澤家	深沢家	石坂家
所在地域	連光寺村 現:多摩市連光寺	深沢村 現:あきる野市深沢	野津田村 現:町田市野津田
持高	73石 山二町 (明治3年)	10石余り (明治5年)	127石 (明治2年)
主な交友関係	近藤勇 田中光顕	千葉卓三郎 北村透谷 利光鶴松	中島信行 村野常右衛門 吉野泰三 北村透谷・美那
自由民権運動へのコミット	神奈川県議会選挙の当選 国会の早期開設運動	五日市憲法の草案 私設図書館の開設	初代神奈川県会議長 政治結社融貫社設立 神奈川県下大同団結
触れていた書物	本居宣長 平田篤胤 (ひらたあつたね)	嚶鳴社憲法草案 民法論綱 法律原論	立法論(ベンサム) 中江兆民
経済的背景	稲作 松木売買 山林経営	村高: 45石(文久3年) 炭 黒八丈(絹織物)	村高: 822石(明治2年) 生糸 絹の道の中継地点 商都

自由民権運動について

1.民撰議院設立建白書を1874年(明治7)提出
(自由民権運動の出発点とされる。)

2.自由民権問題の第一目的

・「立憲政体」の実現を要求

3.天賦人權思想

豪農や地域リーダーたちの国家構想や個人の自主性を重んじる考え方

自由民権運動の流れ

	政府のうごき	民権運動	民衆運動
1872～75	大阪会議 廃刀令公布	民選議員設立の建白書 提出	茨城県、東海地方で地 租改正反対の大一揆
1876～78			茨城県、東海地方で地 租改正反対の大一揆
1879～82	国会開設の勅諭 (明治14年の政変)	国会期成同盟 政党結成	
1883～85	内閣制度確立	政党の結成と解党	激化事件が活発
1886～88	第一回帝国議会	高知県代表「三大事件建 白運動」元老院に提出	
1889～92	大日本帝国憲法発布 衆議院選挙 第2回帝国議会		

自由民権運動について

1. 民撰議院設立建白書を1874年(明治7)提出
(自由民権運動の出発点とされる。)

2. 自由民権問題の第一目的

・「立憲政体」の実現を要求

3. 天賦人權思想

豪農や地域リーダーたちの国家構想や個人の自主性を重んじる考え方

「三多摩」「壮士」とは？

● 「三多摩」

- 東京都23区と島嶼部を除いた部分。かつて北多摩郡、南多摩郡、西多摩郡の3つから構成されていた。(はてなキーワード「三多摩」)
- 地名として残っているのは「西多摩郡」(瑞穂町・日ノ出町・奥多摩町・檜原村)のみ
- 1893年(明治26)年、東京府に編入

● 「壮士」

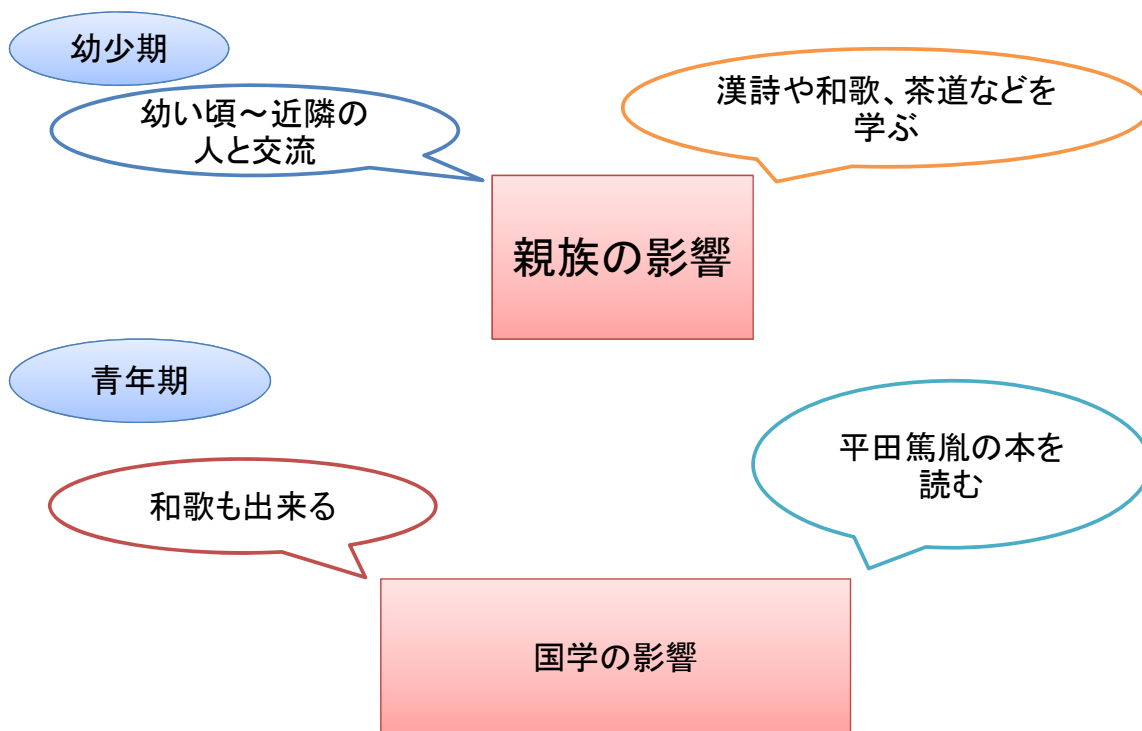
- 明治中期、自由民権思想の普及のために活動した闘士。
(明鏡国語辞典第二版)
- 定職を持たず、時の権威におもねらず自己の信ずる政治活動に奔走する青壮年。

(新明解国語辞典第七版)⁸

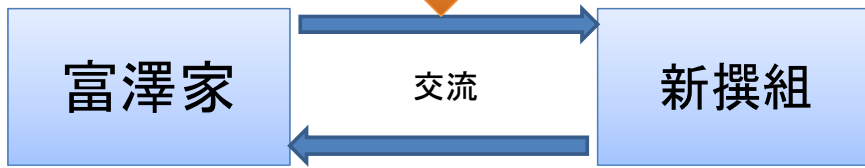
富澤 政恕 関連年表



1824	文政7	武蔵国日野領連光寺村に生まれる。父昌徳、母まき
1835	天保6	政恕12歳この頃より俳諧をたしなむ
1838	天保9	政恕 天然理心流入門 近藤周助から学ぶ 内藤重喬より漢学、春亮上人より茶道、押花を学ぶ
1840	天保11	政恕 小野湖山に詩文、前田夏陰より和歌、佐藤一斎から儒学を学ぶ
1859	安政6年	土方歳三天然理心流入門
1861	文久元	政恕 日野宿組合44ヶ村の大惣代に選任 近藤勇 第4代天然理心流宗家を襲名
1864	文久4	政恕『旅硯九重日記』を書き始め同年書き終える 旗本天野雅次郎に随行し上洛 新撰組メンバーと談笑
1868	明治元	明治維新
1907	明治40	死去 享年84



天然理心流



幕末

尊皇攘夷思想

外国人排除の動き

民権運動への関わり

地租改正等に不満

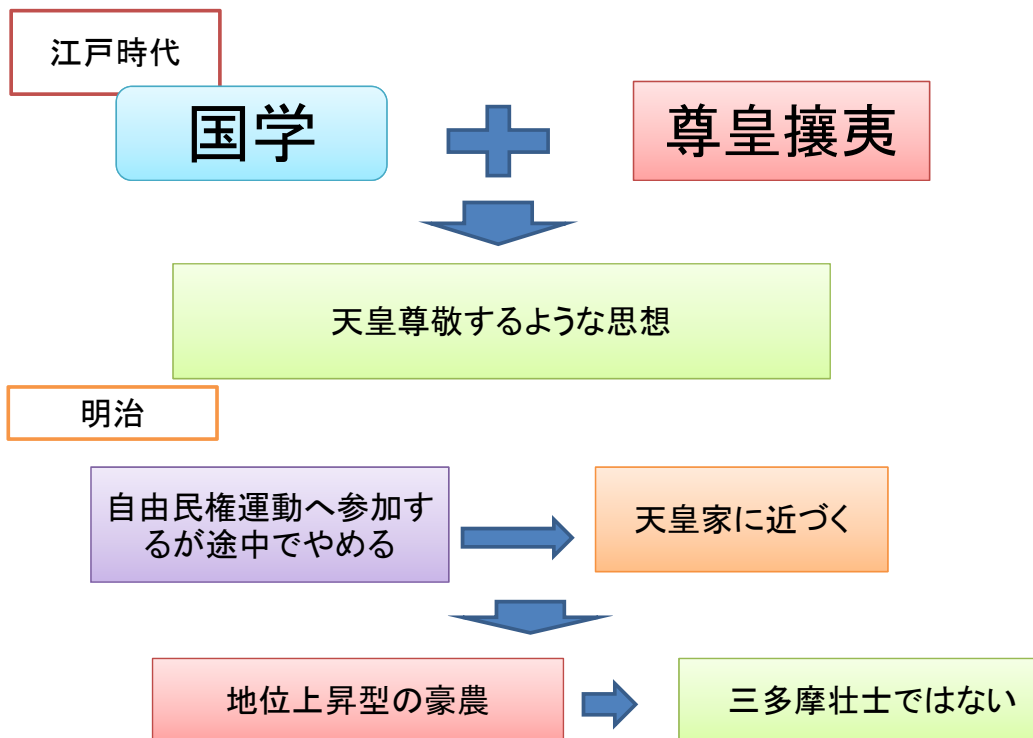
神奈川県議会選挙に出馬

当選

国会早期開設に人力を尽くす

しかし2期途中で辞職

天皇家との関わり



深沢権八

1861年(文久元年)に深沢村(現:あきる野市深沢)で深沢村の豪農の深沢名生(なおまる)の長男として生まれる。

15歳で村長にあたる村用係をつとめる

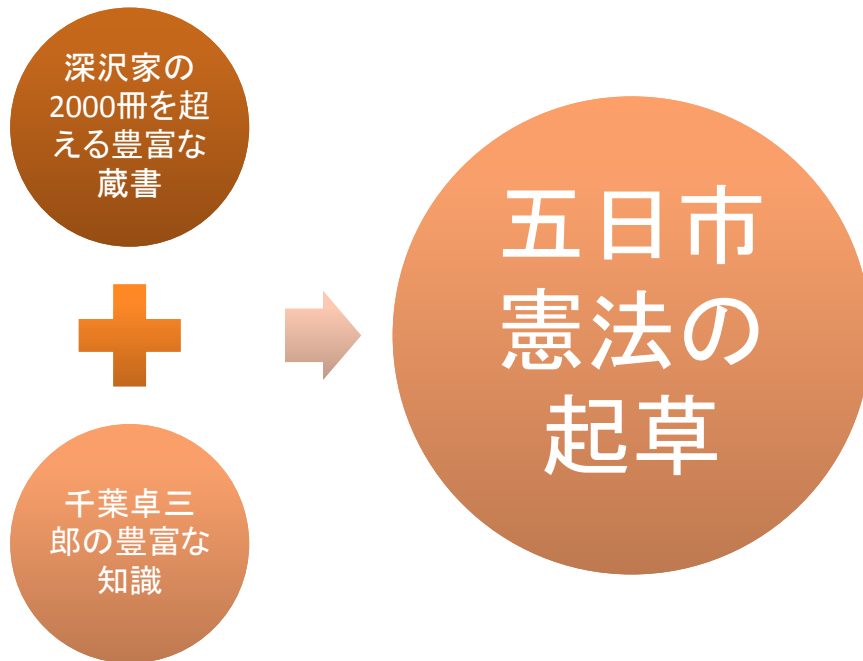
その後、五日市学芸講談会の幹部なども兼務

千葉卓三郎

- 1852年 宮城県栗原郡白幡村(現在の志波姫村)に生まれる。
- 戊辰戦争の敗戦を経験後、上京。蘭学や洋算など様々な分野の勉学に励む。
- 1880年に五日市の勸学校に務めるとともに五日市学芸講談会を設立する。
- 1881年 日本帝国憲法(五日市憲法)起草

深沢家と五日市憲法

- 深沢家には2000冊を超える豊富な蔵書を所有していた。
- あきる野市デジタルアーカイブ(<http://archives.library.akiruno.tokyo.jp/database/index.php>)より
- 千葉卓三郎を含む五日市学芸講談会の会員はこの蔵書を自由に使用していた。
- しかし深沢は三多摩壮士にはなりえなかった



- 石坂昌孝の特徴
三多摩自由民権運動の最高指導者



引用元 『TOKYO TEA TIMES』

<http://tokyo-teatimes.com/?p=903>

西暦	年号	出来事
1841年	天保12年	武州多摩郡野津田村に生まれる。 (現・東京都町田市野津田町)
1879年	明治12年	神奈川県会開設、初代議長となる。
1881年	明治14年	政治結社、融貫社結成。
1882年	明治15年	昌孝を含む融貫社員20余名 自由党に大挙入党。
1883年	明治16年	自由党常議員に選出される。 南多摩郡自由党理事長に選出される。
1884年	明治17年	自由党解党。
1885年	明治18年	大阪事件発覚。逮捕される。
1890年	明治23年	自由党再興。党員に選出される。
1896年	明治29年	群馬県知事に任命される。
1907年	明治40年	死去、60歳

石坂昌孝はどんな豪農であったか

- 彼の地価額の推移をしらべてみると

1878年(明治11年)に5,316円



1885年(明治18年)には1,570円まで減少

- 自由民権運動に全資産を費やした

大阪事件への想い

国事犯の疑ひかかりて 邨野長人が獄に入る折り
そめよる

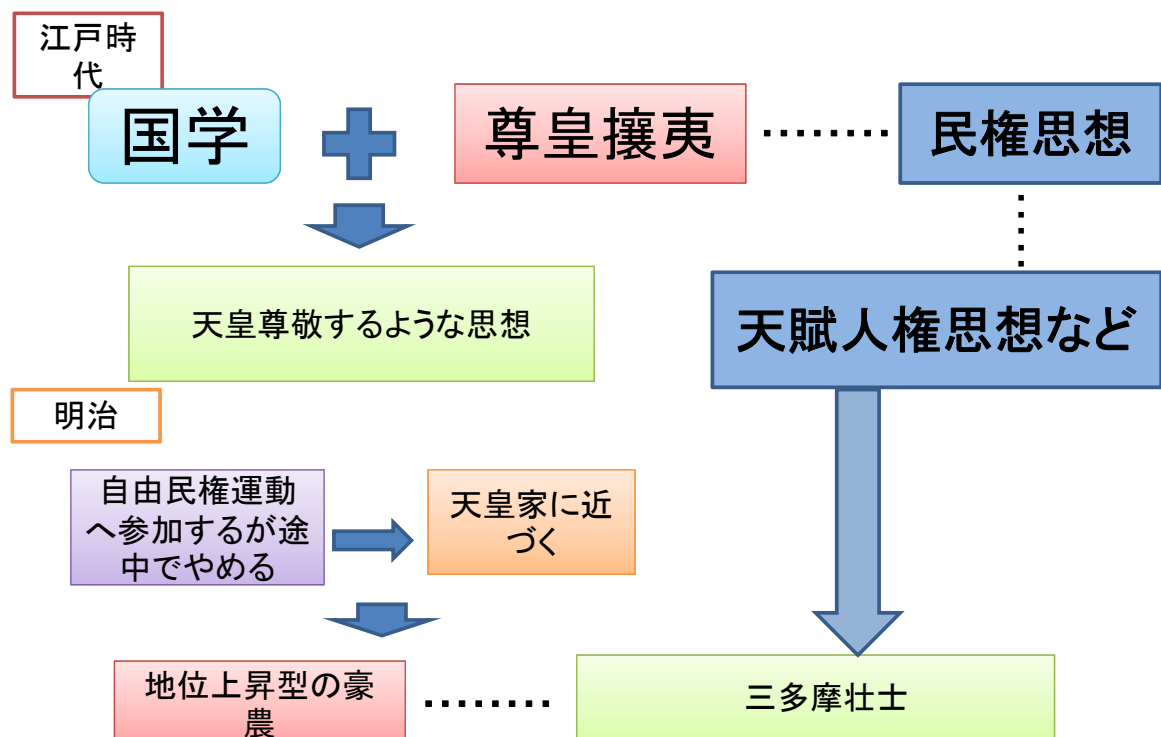
くにのためこゝろ筑紫の剛男が赤き心の道しるへ
かも

<石坂昌孝の生涯P317>

- 石坂昌孝は彼らの行動を賞賛したことから、彼らも紛れもない三多摩壮士であるといえる。むしろ、政府に対してどんなことをしてまで自分の信念を貫く彼らの態度こそが三多摩壮士の象徴である。

	富澤家	深沢家	石坂家
所在地域	連光寺村 現:多摩市連光寺	深沢村 現:あきる野市深沢	野津田村 現:町田市野津田
持高	73石 山二町 (明治3年)	10石余り (明治5年)	127石 (明治2年)
主な交友関係	近藤勇 田中光顕	千葉卓三郎 北村透谷 利光鶴松	中島信行 村野常右衛門 吉野泰三 北村透谷・美那
自由民権運動へのコミット	神奈川県議会選挙の当選 国会の早期開設運動	五日市憲法の草案 私設図書館の開設	初代神奈川県会議長 政治結社融貫社設立 神奈川県下大同団結
触れていた書物	本居宣長 平田篤胤 (ひらたあつたね)	嚶鳴社憲法草案 民法論綱 法律原論	立法論(ベンサム) 中江兆民
経済的背景	稲作 松木売買 山林経営	村高: 45石(文久3年) 炭 黒八丈(絹織物)	村高: 822石(明治2年) 生糸 絹の道の中継地点 商都

まとめ



参考文献

- 「五日市憲法草案の碑」記念誌編集委員会 編 『「五日市憲法草案の碑」建碑誌』 五日市町立五日市町郷土館 1979年
- 色川大吉『流転の民権家』大和書房、1980年
- 梅田定宏『三多摩民権運動の舞台裏』同文館 1993年
- 大畑哲『神奈川の自由民権運動』新神奈川社 1981年
- 大阪事件研究会(松尾章一)『大阪事件の研究』柏書房 1982年
- 佐藤孝太郎『三多摩の壮士』武蔵書房 1973年
- 渡辺奨『石坂昌孝の生涯』多摩文化 1966年
- 渡辺奨 鶴巻孝雄『石坂昌孝とその時代』町田ジャーナル社 1997年
- 渡辺欽城『三多摩政戦資料』有峰書店 1977年
- 渡邊行男『明治の気骨 利光鶴松伝』葦書房 2000年

- ご静聴ありがとうございました